

【朝倉地区人権啓発情報センターだより】 平成29年10月31日(火)

みんなの“人権”が尊重される
「まちづくり」への《^か懸^{はし}け橋》

No. 6

発行：
人権啓発指導員
【大楠 茂美】

九州北部豪雨災害からもうすぐ四ヶ月。関東・近畿地方では
木枯らし1号の“便り、が…。《一步、一步、…あさくら!!》



立石校区（古賀茶屋）松尾宮：楠の木
の間から朝日の輝きが差し込んで…!!

今朝、目映（まばゆ）いほどの太陽が
昇り、私たちの住む朝倉の地にも“希望
や勇気、願い…の光”が届きました!!

思わず、目を閉じてしまいそうな“輝
きの道”が、ご冥福の想いや願いを届け、
被災された方々の心身を少しでも癒し、
明日への生きる希望や勇気につながって
いきますように…!!（10/30：AM7:00～）

昨年の12/9成立、
/16～施行された「部
落差別解消推進法」。
この新法に託された
願いに想いを馳せた
時、「同和対策審議
会」答申*（1965.8.11）

特集《『日本国憲法』にこめられた想い、
…『部落差別解消推進法』にける想い》

【朝倉地区人権啓発情報センター 人権パネル展】
〇日時 11/14(火)～/27(月) 午前8:30～午後22:00
〇場所 朝倉地域生涯学習センター(朝倉市宮野)1Fロビー

等と併せ、その基本理念である全国民の基本的人権の享有を保障した『憲法』
から“人権、をみつめてみたい!!”という趣旨のもと、《憲法と人権》をテーマ
にした【人権パネル展】を企画しました。今回、久留米市人権啓発センターで
作成された「パネル」を借用し、開催できることに…。心より感謝致します!!

◇「同和対策審議会」答申*（1965.8.11《←今から52年前》）とは…

【前文】：「…同和問題は人類普遍の原理である《人間の自由と平等に関する問題》
であり、日本国憲法によって保障された**基本的人権にかかわる問題**である。…」

【第1部】：「同和問題とは、…最も深刻にして重大な社会問題である。」

【第3部】：「同和教育は不合理な部落差別をなくし、人権尊重の精神を貫くこと…」

※ 憲法11条「基本的人権は、侵すことのできない永久の権利」、13条「生命、
自由及び幸福追求」に対する権利、14条「法の下での平等」…が明記された!!

この「**同和対策審議会**」答申について、近畿大学の奥田 均（ひとし）先生は、著書『「同対審」答申を読む』の中で、次のように述べられていました。…

…こうした憲法の理念《基本的人権の尊重》は、“同和問題の上を素通り”し、部落差別の実態は事実上、放置されてきた。戦後の部落解放運動は部落差別の解決に国を挙げて取り組むことを訴え、**戦後20年遅れで～同和問題と憲法の出合い～の契機となったのが「同和対策審議会」答申**だった。…



この「**同和対策審議会**」答申を受け…

「**同和対策特別措置法(同対法)**」(1969[昭44])～1982[昭57])

「**地域改善対策特別措置法(地対法)**」(1982[昭57])～1987[昭62])

「**地域改善対策特定事業に係る 国の財政上の特別措置に関する法律(地対財特法)**」(1987[昭和62])～2002[平成14]) 《※3回継続…》



そして、一般対策への移行とともに…

「**人権教育及び人権啓発の推進に関する法律**」(2000[平成12])～) ※恒久法

をもとにした人権行政としての同和行政が推進されるが、「…**現在もなお部落差別が存在するとともに、情報化の進展に伴って、部落差別に関する状況の変化が生じている。**…《**部落差別解消推進法:第1条《目的》**より～》」ことを踏まえ、…



「**部落差別解消推進法**」(2016[平成28]12月9日成立、16日施行) ※恒久法

この法律のポイントは…

- 現在もなお、**部落差別が存在する**との認識が法律に明示される。(第1条)
- 部落差別は**憲法に照らして「許されないもの」「解消すべき課題」と**明記(々)
- 部落差別の解消に関する**教育及び啓発の必要性**が明記(第5条)

「**日本の人権史上、「同対審」答申の果たした役割は例えようもなく大きなものがあると言えるでしょう。**」と奥田先生は、著書のまとめの中で書かれていました。また、「**「同対審」答申は私たちに、部落問題の解決に対する本気度を、今も問いかけています。**」とも…。そうした意味からも、これから…

憲法に謳われている《**全ての国民に基本的人権の享有を保障する理念**》から、

- **憲法に照らして「許されないもの」「解消すべき課題」**である部落問題
- 様々な人権問題(高齢者や女性、子ども、性的少数者、障がい者、外国人、医療をめぐる人権、職場と人権、…)

を見(視⇒観⇒頭⇒診⇒看⇒) つめてみることは、とても大きな意義が…!!

三十三年間の特別対策

【朝倉地区人権啓発情報センターだより】 平成29年11月30日(木)

みんなの“人権”が尊重される
『まちづくり』への《懸け橋》

No. 7

発行：
人権啓発指導員
【大楠 茂美】



西日本新聞【11/27(月)】
朝刊で紹介されました…。

～夜空の花火に復興誓う!!～朝倉市で 4000発の花火が晩秋の夜空を彩った。

朝倉市の小石原川・甘木橋下流で25日夜、復興祈願花火大会が行われました。…朝倉商工会議所が復興支援事業の一つとして取組み、仕掛け花火では、「元気ばい!! 朝倉」「かがやく朝倉」等の言葉で、復興に向けた願いが夜空いっぱい広がって…!!

「稲を育てていた農園が土砂で埋まり、餅つきをあきらめていた松末小に、ボランティアで来られていた愛媛県の先生方が、「米や臼、持参で学校を再度訪れ、餅つきのプレゼント!!」という記事も…。被災をされた方々の痛みを、自分の痛みとして受け止められる多くの方々に、また、勇気をいただきました!!

日本国憲法の“両性の平等”に係る条項作成にかかわった 女性 ベアテ・シロタ・ゴードンさんのこと、ご存じですか?…



米国の舞台芸術監督、ウィーン生まれでユダヤ系ウクライナ人(ロシア統治時代)の父母を持ち、少女時代に日本で育った。22歳でGHQ民生部に所属し、GHQ憲法草案制定会議メンバーとして1946年の日本国憲法に関わり、24条(個人の尊厳と両性の平等…)草案を執筆した事実が1990年代になって分かった。2012.12.30…89歳で死去

(人権セだより No.6)でお知らせしておりましたように、《憲法と人権》をテーマにした人権パネル展を開催しました。…その中で、憲法の人権条項の作成にかかわった「ベアテ・シロタ・ゴードン」女史のことを、初めて知りました。…

お父さんは著名なピアニストで、日本の作曲家 山田耕作先生の招きにより、東京音楽学校の教授として、1929(昭4)年に来日したそうです。

当時、ベアテさんは5歳。15歳で米国へ留学するまでの約10年間、日本で生活することとなりました。…

ベアテさんは、お母さんの友人である日本の女性たちなどの話を通じ、日本の女性たちの置かれた立場を考えるように…。日本の女性は、夫の後ろを歩き、客が来ても一緒に食事をしたり、会話したりすることもなく、ただ給仕をするだけ。社会的な役割は全くなく離婚もできず、好きな人と自由に結婚できない。財産権もないし、相続もできない…といった日本の女性の姿は、ベアテさんの



米ベアテ・シロタ・ゴードン女史と日本人の子どもたち。未来に生きる子どもたちのためにも、草案作成に努めた!!…

心に深く刻み込まれていったそうです。

終戦後の 1945 (昭 20) 年 12 月に、GHQ 民間要員として来日したベアテさんは、1946 (昭 21) 年 2 月 4 日の朝、突然「今日からあなたたちは、新しい日本の憲法草案を作るのが任務です。」と言われ、日本政府の代表が作成した憲法草案が、明治憲法と変わらない内容であったため、これに失望したマッカーサー元帥 (げんすい) は、ベアテさんら民政局のスタッフに、1 週間で

日本の憲法の草案を作成するように命じた…とのことでした。

ベアテさんは早速、各国の憲法を調査するとともに、子どもたちに見聞きした日本の女性が置かされていた状況を思い出し、どのような権利が必要かを考えていったそうです。そうして、「ベアテ草案」が作成され、…

○ **すべての人間は、法の下に平等である。人種、信条、性、門地、国籍による、政治的、経済的、社会的関係における差別はいかなるものも認めず、許容しない。**…

○ **婚姻と家庭とは、両性が法律的にも平等であることは当然である。このような考えに基礎をおき、親の強制ではなく相互の合意に基づき、かつ男性の支配ではなく…両性の協力に基づくべきことを、ここに定める。**

… (略)

《婦人展望1993 (平5) 年7月号より抜粋》

GHQ と日本政府との間で最終的な憲法草案に関する協議が行われたおり、女性の権利の条項に強く反対する日本政府代表に対して、『この草案は、ここで通訳をしているシロタさんが、日本の女性の立場を考えながら、多くの想いとエネルギーをつぎ込んで書いたものだ。』として説得し、日本国憲法 14 条や 24 条に「両性の平等」などに関する人権条項が挿入された…とのことでした。

つぶやき…

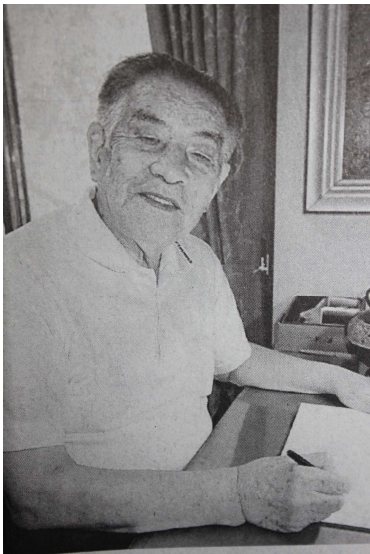
憲法 24 条には「婚姻は、両性の合意のみに基づいて成立…」と定められていますが、「合意に基づいて…」という原案に、《…のみ》の挿入にこだわった、当時の参議院副議長であった「松本 治一郎」さんの想いが…。

【朝倉地区人権啓発情報センターだより】 平成29年12月21日(木)

みんなの“人権”が尊重される
『まちづくり』への《懸け橋》

No. 8

発行：
人権啓発指導員
【大楠 茂美】



連載：第1号（2017【平29.8.23】）西日本新聞朝刊の写真。…読むたびに、「父ありてこそ」という題に込められた熱い想いが、伝わってくる毎日でした!!

『父 ありてこそ…』（1～93号）はやし ちから
（公益社団法人・福岡県人権研究所顧問 林力 さん）

「年月を経てもなお、その輝きを失わないのは、部落問題の解決をめざすための原理・原則が刻まれているから…」と、近畿大の奥田 ひとし 均 先生が表される『同和対策審議会答申』（1965（S40））が出される4年前のこと…。

福岡市同研を発足後、福岡県同和教育研究協議会【現福岡県人権・同和教育研究協議会】を立ち上げ（1961（S36）5.27）、当初から26年間、会長職を続けられた林力先生の“回想録”ともいふべき『父ありてこそ…』（西日本新聞朝刊連載）が、12/14（木）で最終回を迎えることとなりました。

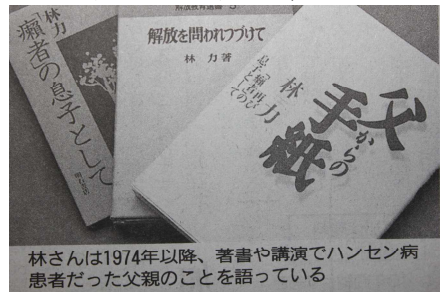
最終93号では「父ちゃん ありがとう!!」と、今は亡き父親への…温かい感謝の言葉で、この連載が締めくくられていました。

○「父が家を出て敬愛園に入ったのは、私が13歳の時。一緒に過ごした時間はわずかですが、長い人生を振り返ると“父ありてこそ、という以外に言葉が見つかりません。93歳になっても父の肖像画に見守られて…”。

○「有志で同和教育運動を始めた頃は賛同が広がらず孤立無援に…。そんな時に「一生の仕事として離さないように」「不動の信念の上に、万難を排してやってください」と書かれた父の手紙が、どれだけうれしかったか!!」

同和教育運動に出会い、同和教育を根っこに据えた教育活動を進めていく中、今の自分があるのは“父ありてこそ”といった真情が、一つ一つの文章や行間、『父や家族に支えられて』といった最終号の小見出しなどに表されているように思います。約4ヶ月間に渡った連載を通し、これまでの福岡県における同和教育の歩みや、林力先生の心の葛藤などを少し振り返ってみたいと思います。

冒頭、「私の父は、ハンセン病患者でした。…」で始まった連載。昔は「らい病」と呼ばれた感染症。戦後、特効薬が開発されましたが、国は1996（平成8）年のらい予防法廃止まで隔離を改めませんでした。こうした動きの中で、林力少年が13歳の夏休みの終わり（1937（昭和12）年）、父親と離れ暮らすことになりました。当時、無らい県運動（らい病【ハンセン病】に罹患した人を療養所に強制収容した隔離政策）が始まっており、父はハンセン病患者として鹿児島県の国立星塚敬愛園に入り、以来、亡くなるまでの24年半、この療養所で過ごされたそうです。時折届く父親の手紙には、



林さんは1974年以降、著書や講演でハンセン病患者だった父親のことを語っている

「父のことは隠し通せ」「絶対に知られてはならぬ」と、何度も書かれてあったそうです。また、「級友に“くされの子”と呼ばれ、父のことで失恋も経験した私は、懸命に隠しました!! 父は死んだことにしました。社会の偏見がそうさせたのです。」といった記述が…。「父親はもちろん、家族にとっても辛い日々が続き、住んでいる家に居られなくなり、母親と二人で東京へ!! 父からの、ハンセン



点から面に広がった福岡県同教の活動。同和教育研究大会は回を重ね、福岡県教育界に定着した
—1986年、福岡市・西南学院大

病からの逃避行の始まりです。」「ハンセン病の感染に怯え、父の存在を隠していましたが、懐かしく思う気持ちが消えることはありませんでした。」…

《福岡から、九州行脚へ!!》福岡市同研を発足後、1961（S36）年5月に福岡県同教が誕生!! …その後、すぐ行政の枠組みを越えた広がりをめざし、同和教育運動を九州全域に…と、福岡から反時計回りに九州行脚（佐賀→長崎…）を始めました。【連載54号～】

小学校の教師となり、部落差別の現実と向き合い、様々な課題に直面しながらも、同和教育を教育の課題にしなければ…と、教師仲間3人で福岡市同和教育研究会を立ち上げました。福岡県から九州各県へ…と、同和教育の推進に尽力されてきた“歩み”を、父親への募る想いと重ね合わせながら、克明に綴られていました。…「子どもの生活の現実を知らず、子どもを深く傷つけて

いたこと」「識字の取組を通して、文字を奪われていたという事実（差別の現実）に気付かされ、文字をとりもどしていく中で、初めて“夕日が美しい”と感じた識字学級生の豊かな感性から、教育の在り方を考えさせられたこと」「全国統一応募用紙の取組」「絶対に退学させない信念を貫いた取組」など…。

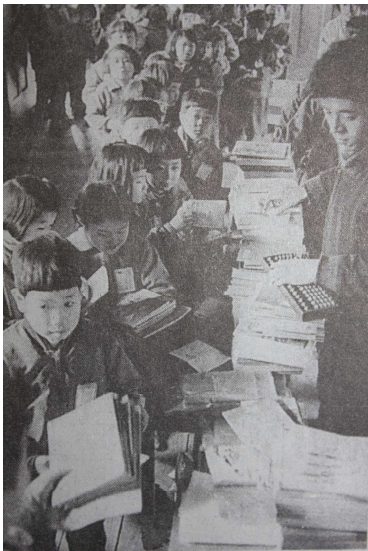
そうした様々な取組から、「**耻でないものを…耻とするとき、本当の耻になる。そんな気持ちが、私の中で強くなっていったのです。**」と、父を隠し続けてきた自分との出会い直しについて、連載77号の中で記されていました。（…次号に続く）

【朝倉地区人権啓発情報センターだより】 平成29年12月28日(木)

みんなの“人権”が尊重される
『まちづくり』への《懸け橋》

No. 9

発行：
人権啓発指導員
【大楠 茂美】



『父 ありてこそ…』(～NO.2) はやし ちから
(公益社団法人・福岡県人権研究所顧問 林力 さん)

《恥でないものを恥とするとき 本当の恥になる。そんな気持ちで、私の中で強くなっていったのです。…》と、父を隠してきた自分との出会い直しについて、連載77号の中では、次のようなことも語られていました。

父はすでにこの世にない。隠そうと思えば、そのままですまされるのだが、**私は語ることに、新しい意味をみつけてみようと思う。**父はらい病であった。

《教科書無償の闘い!!》

1961 (S36) 年、高知市のある同和地区での学習会。憲法に係る学習で26条2項「義務教育は、これを無償とする。」の条文に着目し、教科書無償への賛同の輪は広がり、国を動かして、2年後の63年までに教科書無償の法律成立!! そして…

- 64年：小1～3年
- 65年：小1～5年
- 66年：小1～6年
- 67
- ～69年：中1～3年

★無償が実現!!

連載66号には、「同和地区の保護者の訴えが、全国民に利益（無償の恩恵）をもたらしたのです…」と記載されていました。

…「私は療養所にいる父と手紙のやりとりを重ね、時々、面会に行きましたが、『父のことは終生の秘密とせよ!!』・『知られるな!!』…と、強く念を押されました。

言われるまでもなく、父の存在を隠していました。父が療養所に入ってからすぐ、私と母が暮らす家は近所への見せしめのように真っ白になるまで消毒され、転居せざるを得なくなりました。父のことが原因で失恋も…。「父への面会は、いつも人の目を避けて行きました。いつか、私も感染するかもしれないとおびえ、肌には何かできただけで『ついにきたか』と、何度思ったことか!! 考えてみると、**父が隔離されたことを恥と思わされていたのでしょう。**…それだけ、差別や偏見、誤った認識が、根強かったのです。」

私は同和教育に目覚め、関わるようになり、父を語る力を得ました。同和教育を学べば学ぶほど、**“父を隠していること、への葛藤が募りました。**

父親の責任ではないことで、《…恥ではないのに、恥としてしまうこと!?》自体、**“本当の恥、になる!!**



親子三人が並んだ写真
母が敬愛園に行った最初で最後の写真。…「面会室の机の前に座ると、私をまじまじと見つめ、ボロボロと涙をこぼしました…。」【連載26号】

しかし、こうした想いに至るまでには、父に対する申し訳なさや、子として父を慕う自然な気持ちとは裏腹に、大きくゆれる家族としての真情が、連載 35 号にも吐露（隠さずにうちあける）されていました。…

「父が一時帰宅したことは、知られたくありません。嬉しいというより、人に見つかったら？…と心配する三日間でした。またも、ぎこちない帰宅となりました。博多駅から夜行列車に乗る父を見送る時、申し訳ない気持ちでした。…でも、どこかでホッとしていました。ハンセン病に対する社会の偏見は患者の家族にも重くのしかかっていた。…（父は）家族の冷たさを肌で感じたのでしょう。敬愛園に戻った父からの手紙には「もう帰らないから安心してくれ!」と書かれていました。」

そんな、家族への切ない想いととも、連載 36 号では、家族への限らない想いが、記されていました。…

「初めて敬愛園に行った 1946（昭 21）年以来、何度か父に会いに行きました。土曜の深夜博多駅を出て、園に到着するのは日曜の昼過ぎ。月曜の朝から仕事をするには日曜の午後に園を出ないと…。そんな慌ただしい面会ですから、帰る時間が近づくと、父はなごり惜しそうでした。」「切なかったですね。私も何回も振り返って、手を振りました。父からの手紙には、『会うと、別れが辛く淋しい。』と…。」



ハンセン病家族訴訟の第 1 回口頭弁論後に、記者会見する原告団団長の林さん【連載89号】

★《父を語る意味》
…を考え始めた同和教育との出会い!!(…次号に続く)

連載 85 号～からは、2016（平 28）12 月に成立施行した『部落差別解消推進法』に重ねての想いが記されていました。…「最近の部落差別は、（情報化が進み、部落差別に関する状況の変化が著しく）隠微になっています。面と向かって差別することは減りましたが、悪質な問題が見えにくくなっています。部落差別の問題は過去の問題になったのか？ いや、差別は、厳然としてあるのです。以前から指摘される、人々の意識を変える教育や啓発が課題として残っています。心の底にある差別意識が表出する…最たるものは、結婚です。部落差別解消を『国の責務』『国民的課題』と明記した同対審答申から半世紀以上が経っても、なお、新たな法律を作らざるを得ない現実があるのです。息の長い、教育や啓発以外に方法はないと思います。」

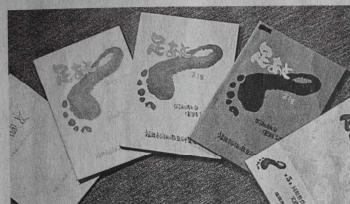
【朝倉地区人権啓発情報センターだより】平成30年 1月 5日(金)

みんなの“人権”が尊重される
『まちづくり』への《懸け橋》

No. 10

発行：
人権啓発指導員
【大楠 茂美】

ムラに通うことから



福岡市同研がまとめた
実践記録『足あと』(市同研
30年史…ぬくもりからの
出発より) 【連載 47号】

『父 ありてこそ…』(～NO.3)

はし ちから

(公益社団法人・福岡県人権研究所顧問 林力 さん)

教育が見落としてきた部落差別の現実。…旗を立てたはいいが、何をすればよいか分からない。周りに先達はいませんし、今のように同和教育指針も手引き書もありません。できることは、「ムラ」と呼んでいた同和地区へ足を運ぶことでした。…

「…いろんな人と話をして、聞いたことのなかった差別の現実を知り、想像もしない生活実態に出合い、日々発見の連続。やがて、部落差別に学校教育が、いかに無頓着であったか!!…を、思い知らされます。教師も差別に無知・無関心であり、結果として差別に加担をしていたのです。」

「初任地の小学校に、通知表を提出しない子どもがいました。持ってきても、保護者欄に印鑑がありません。“成績が良くなかったので、見せていないんだ。”と直感し、印鑑をもらってこい!!と叱りました。卒業して何年も経ってから、同窓会に出席した彼が、当時のことを話してくれ、ハッ!!と…しました。家に、印鑑がなかったのです。」

印鑑を押さないのは



「差別の現実に深く学ぶ」…実践は同研等で共有された。【連載 48号】

「その子は、同和地区に住み、両親とも日中は働き、夜も連絡が難しかった。昭和 20 年代の同和地区には印鑑のない生活をしている人も…。なのに『印鑑を押してこい』と何度も叱られ、辛かったです。結果的に、私は大変な差別者でした。子どもの生活の現実を知らず、教師が思いを貫こうとして、子どもを傷つけていたこと…。同和教育の中で少しずつ分かっていきました。」
「あるムラの母親から相談で『娘さんが自ら住む同和地区の住所やバス停を避け、出勤時や帰宅時、一つ先のバス停で乗り降りし、走って行き帰りようとよ。』と近所の人から教えられ、娘さんの言いようのない想いに気づかされました。」

同情 助けるつもりが



「子どもとの楽しい毎日の中、長い教師生活で、一番やり損なった…」と記された出来事。「彼の家があった場所を通ると、今でも胸がうずきます。」との想いが…【連載 50 号】

小学校教師になり 2 校目。担任していた学級に、給食の時だけ教室に来る子が…。食べ終わると、さっと居なくなりました。家庭訪問すると病床にある保護者とその子。クラスの友は心配して、何かしようと声を上げ廃品回収をすることに…。校区の人に呼びかけると、山のような品物が…!!

代表の子と彼の家を訪れ、換金したお金を、戸惑った様子の母親の手に押しつけるようにして渡しました。この出来事は美談として新聞記事に…。しかし翌日、彼は給食時間になっても教室に現れず、慌てて家を訪ねると、子どもと病気のお母さんの姿はどこにもありません。…

「二人の姿が見えないだけでなく、家財道具もなくなっていました。私は、とんでもないことをしてしまいました。」と…。「家庭訪問時、同じ学級の友だちを連れて行ったことや、戸惑った様子の母親に押しつけるようにお金を渡したこと、いかにも荒っぽいやり方でした。差別とか人権とか言いながら、自分の行動の差別性に気付きませんでした。」と述懐されています。さらに、「やがて、『同情は差別である』という言葉にふれます。**同情のない世の中は砂漠のようですが、結果的に差別になっていることは重くみなければなりません。**」と…。

文字を知る喜び 感動



福岡県識字経験交流会が披露する劇「あいうえおからの解放運動」。識字の実践は現在も続いている

1992：県識字経験交流会で!
「あいうえおからの解放運動…」
【連載 58 号】

夕日が美しく見えた



識字学級で文字を覚えたお母さんは、夕日がそれ

★識字学級で文字を覚えたお母さんは、夕日が違って見えた…!!
【連載 59 号】

文字を奪われていた実態に気づき、「あいうえお」の「あ」、「いろはにほへと」の「い」を書くことから、(誰が言い始めたのか…) 識字学級の取組みが始まりました。

「文字を習うようになり、世の中の見え目が変わり、『うち字をなろうたら、夕日がうつくしゅうなったんよ!』と感じた学級生!! 部落差別で、親が生活に十分な収入を得られる仕事に就けない。貧しさ故子どもは学校よりも働くことを優先せざるを得ない。

教育を受ける権利が侵害されているのに行政や学校は…、教師は…。文字も、美しいものを美しいと受け取る感性も奪われていたと言えるのです。」

こうした福岡県における同和教育の“歩み”を振り返り、部落差別をはじめ、様々な人権問題ときっちり向き合い、学校教育の根っこに同和教育の視点を、しっかり捉えることの大切さについて、連載を通して伝えていただきました。

【朝倉地区人権啓発情報センターだより】 平成30年 2月23日(金)

みんなの“人権”が尊重される
『まちづくり』への《懸け橋》

No. 11

発行：
人権啓発指導員
【大楠 茂美】



夕やけが うつくしい!!...

ちたくしはうちがびんぼうでやつたので
がっこうへ行っておりません。
だからじいさまやばあさまにせんでした。
いましきものがきゅうでるまようして
かなはだいたいのおぼえまじか
いままでおしいや、行ってそえかけで
なまえまかいてもらってました。がためし
にじいさんでかいてためしてみました。
でもごみさんが北代さん、とよんでくれたので
入へるうれしかった。
夕やけを見ててもあまりうつくしいと
思はなかつたけれど、おぼえて
ほんとうにうつくしいと思ふようにな
りました。そえがあるいておぼえて
かんばんにきをつけていてな、わつた
れを見つけると、おぼえてうれしく思います
すうじおぼえてたので、すうじもよくよう
いちやくくのもたのしみになりました。
またリトかんへ行って、もへやのばん
ごうを、おぼえがあるので、はともかかなく
なりました。これからはかんばつて
もっともよとべんまようをしないで。
十年ながいままを、したいと、思います。
四十八年二月十八日
北代色

この文章（手紙）には、部落差別のために学校へ行けなかった北代色（いろ）さんが、識字学級に通いながら奪われた文字を取りもどしていく中で、自然のすばらしさなど次々と広がる新しい世界に感動し、生きていくことの喜びをかみしめている心の動きが一言一言に込められ、表現されていました。…

同和教育推進教員が同和地区に通うようになり、子どもの周りに読み書きができない人が多いことに気付きます。そこから福岡県の識字運動が始まりました。文字を奪われていた実態に気づき、「あいうえお」の「あ」、「いろはにほへと」の「い」を書くことから **識字学級の取組【『懸け橋』No.10号に記載】**が…!!

『父ありてこそ(59)』の中で林 力さんは、「この識字運動で、《字は、字を持たない人から学べ!!》と実感した…。」と、語られていたのが印象的でした。

「…今まで、何回夕日を見たか分からない。美しいと思ったことは、一度もなかった。でも、先生に字を習うようになってから、世の中を見る目が変わった。稲刈りの時、夕日が落ちるのが見え、慌ててポケットから鉛筆とメモ紙を取り出した。そして、「ゆうひが うつくしい」と書いた。」と話されたお母さん…。

また、識字学級の後、「お母さんたちの一生を書いてほしい。」という頼みに応え、懸命に文字を覚えた…あるお母さんが、52歳の時に書いた作文です。

「**あいうえお**」…いえがびんぼで こぞものせわからなわしないをする。そしてむぎつき こめつき。…じゆにのとき たんこのしごといた。さむいひでもしろたびと わらじをはいていきました。…よのなかがいやになり しんでしまえとかんがえた。なにもかもわすれた。ねずみとりのくすりがあることにきがつき ふるえるてで くちのなかに…。あおいひがくちからでた。…

~~~~~ (中 略) ~~~~~

…あめのひ かぜのひ ゆきのなかも やすまずわたしたちにじをおしえてくださる。よのなかのこともわかり さべつおされてきたことも。わたしたちこころもあかるく ひかりがさしてきました。… (※原文のまま掲載)

《文字だけでなく、美しいものを美しいと感じる感性をも奪われていた…》という**教育格差**の課題は、**就労**や**福祉等**にも大きな影響を及ぼしてきました。

こうした**“負の悪循環”**を断とうと、この50数年、地道な取組が行われてきた成果として、生活環境等（実体的差別）の改善や、人権・同和問題に係る正しい認識の拡がりが見られるようになったきたものの、残念ながら、今なお、結婚の際の身元調査や就職試験で本人の能力や適性に関係のない質問、差別的な内容の文書送付等に加え、情報化の進展に伴いインターネット上で、差別を助長するような内容の書き込みがなされる…といった事案も発生しています。

朝倉市では昨年、豪雨災害後のボランティア活動に関わって、同和地区での活動を避けるため、同和地区の場所を聞き出そうとする差別問い合わせに当たる電話が入りました。…身近に起こった人権侵害（部落差別）に直面し、改めて、**教育・啓発を継続して行う必要性!!**…を痛感させられました。

~~~~~  
今一度、冒頭に掲載させていただいた識字運動の原点に帰り、

「**部落差別解消推進法**」で示された《～全ての国民が等しく、基本的人権の享有を保障する憲法の理念～》のもとに、**部落差別のない社会の実現**するため、…

まずは、私たち一人一人が同和問題を始め様々な人権問題について、**他人ごとではなく、自分の問題として…**しっかり受け止めるところからスタートしましょう。…私たち、だれもが**《人権のまちづくり》**の主人公です!!



【朝倉地区人権啓発情報センターだより】平成30年 3月 2日(金)

みんなの“人権”が尊重される
『まちづくり』への《懸け橋》

No. 12

発行：
人権啓発指導員
【大楠 茂美】



★平昌五輪閉会式を迎え、ステージ中央は各国の選手たち。まさに、世界は一つになって…!!

第23回冬季オリンピック平昌(ピョンチャン)大会が2/25(日)17日間の熱い競い合いに幕を下ろしました。1998(平10)年、日本で開催された“長野五輪”から20年。…今回もまた、国を越えて多くの感動を分かち合うことができました。もうすぐ、今度はパラリンピックが始まり

ます。国や性別、障がいなどを越えて、ルールに則り《より高く・より速く・より美しく…》、選手同士が競い合う真摯な姿に、世界中に“感動の渦”が…!!

そんな中、スピード・スケートの小平選手の《ある姿》が心に残っています。…500メートル決勝で、最善を出し切って走り終えた小平選手。オリンピックレコード!! 会場内からは大歓声が沸き起こっていました!! まさにその時…。

次に滑る選手のことをおもんばかりで、場内の観客の人たちに「お静かに…」と〈シッ…〉と口元に指を押し当て、さり気なく…軽く後ろに手を向けながら「次の選手も気を散らすことなく、滑りやすい環境で…」という仕草(しぐさ)をごく自然に、当たり前…。次に滑る選手の一人は、競い合っていた韓国の李相花(イ・サンファ)選手でした。思わず、水が引くかのように…会場のざわめきが止み、シーンとした張り詰めた中で、次のレースが始まりました。

試合後、小平選手は「金メダルをめざし、この4年間スケートに打ち込み、この大会で悔いのないスケートができました。次に滑る李選手が、更にいいタイムを出し、(私が)“金”を逃したとしても悔いはありません。悔いのない最善の走りをするのが一番の目標!! 結果は後からついてくるものです。」とのコメントが…。自分のことのように相手の立場に立った、さり気ない仕草(しぐさ)に、小平選手の生き様が…。そして、次のように話されていました。

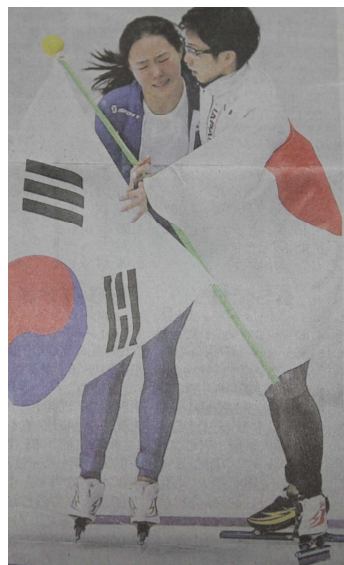
～ 競う相手に(心から)最善の敬意を払い、…
フェアプレーに徹するのが、スポーツマンシップ。～

だからこそ、レースの後、0.39 秒の僅差（きんさ）で2位になり、重圧に耐える韓国の李選手にさり気なく、そっと寄り添い「あなたも、よくがんばったよ!!」と、韓国語で語る小平選手の姿があったのだと思います。

メダルをめざす前に一人の人間として、相手に敬意をもって接する姿は、メダルの持つ意味合いを…より深いものにしたのではないかと思っています。また、小平選手は、次のようにも話されていました。…

**「…メダルを通して、どういう人生を
生きていくのが大事…だと思ふ。」**

より速く…をめざし、極め続けようとする小平選手の生き様から、メダルをめざしながらもメダルに執着するだけでなく、他選手との競い合いと同時に、自らをみつめ、自らとの向き合いの中で、同じように厳しい練習に励む他選手への最善の敬意(自分のことのように他者を認め合う)をはらい、正々堂々とフェア・プレーで競い合うことが、真に、極みに近づく“真理”ではないか…と考えさせられました。このことについて、小平選手は**《お互いが高まり合っ、お互いが尊重し合っ 成長していくのがスポーツ》**だと…。



今回の出来事は、**《部落差別のない社会、人権が尊重される社会の実現》**に向けた考え方**【→自分の人権のみならず、他人の人権についても正しく理解して、その権利の行使に伴う責任を自覚して、人権を相互に尊重し合うこと(=人権の共存)】**と、誰も一人一人、すべての命（いのち）を尊重する…という根っこのところで、しっかりと相通じるものでした。…



冬季平昌五輪の話題と同時に、流れた『シリアの首都：ダマスカス近郊の東グータ地区におけるシリア内戦』の報道に、思わず息を飲み…言葉がありませんでした。2/18 から 7 日間で多くの市民が…、子どもたちが犠牲になっている事態に…。「この世の地獄」とまで強い表現を使ってコメントをされていた国連事務総長。「有毒塩素ガス使用か？」という報道もされていました。同じ『**宇宙船地球号**』の上で、かたや“平和の祭典”であるオリンピックに集い、互いを尊重して競い合う仲間…。

他方、逃げ惑い、傷つき、恐怖におののく人々や子どもたち。同じ『**宇宙船地球号**』乗組員として、誰もが将来に夢や希望をもち、幸せに生きる権利を希求できるためにも、**“待たなし..の人権・平和・環境…**のこと、自分の問題として心にとめて、できることから一歩を…!!

